

(京都府政記者クラブ, 京都市政記者クラブ, 京都経済記者クラブ, 関西プレスクラブ参考同時配布)
平成 29 年 8 月 8 日

文化庁地域文化創生本部発足記念セミナー

「オランダの文化政策の最新動向：質と公共的価値重視への転換」

文化庁では、本格的な移転に先立ち本年 4 月に地域文化創生本部を京都に設置し、観光・まちづくりなど文化関連分野との積極的な連携をはじめ、これまでの文化行政の枠組みを超えた新たな政策ニーズに対応すべく、地元の関係団体の協力を得ながら活動しているところです。

地域文化創生本部の発足を記念した本セミナーでは、芸術・文化の価値を再確認し、これを活用した観光・まちづくりなどの分野と連携した文化政策について、国際的に活躍する文化経済学者であるアリオ・クラマー氏（オランダ・エラスムス大学教授）からオランダの文化政策の最新事例等を紹介いただきます（日本語通訳付）。

記

- 1 開催日 平成 29 年 9 月 12 日（火）13 時 30 分～15 時（13 時受付開始）
- 2 講師 アリオ・クラマー（Arjo Klamer）
エラスムス大学（オランダ）芸術・文化経済学講座教授
通訳 後藤和子 摂南大学経済学部教授
- 3 参加費用 無 料
- 4 募集人数 先着 100 名
- 5 申込方法 参加申込書により、FAX（075-561-3512）又は Eメール（policy-co-re@mext.go.jp）で文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ セミナー係宛、8 月 29 日（火）までにお申込みください。
- 6 会 場 京都市東山区総合庁舎北館 3 階大ホール
〒605-8511 京都市東山区清水五丁目 130 番地の 6

〈お申込み問合せ先〉 文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ セミナー係
電 話 075-330-6720
F A X 075-561-3512
Eメール policy-co-re@mext.go.jp

- 7 その他 取材を希望される方は、9 月 6 日（水）17:00 までに FAX（075-561-3512）で文化庁地域文化創生本部宛、登録願います。

主催：文化庁 地域文化創生本部

協力：京都市、文化経済学会〈日本〉、同志社大学創造経済研究センター

Arjo Klamer アリオ・クラマー



エラスムス大学（オランダ，ロッテルダム）芸術・文化経済学講座 教授
1953年オランダヒルバーサム生まれ。1978年アムステルダム大学経済学博士。
1981年アメリカのデューク大学で Ph.D. 取得後，アメリカ各地の大学で教鞭をとり，世界初の文化経済学教授ポストをおいたエラスムス大学で最初の教授となる。国際文化経済学会前会長。ロッテルダムアーツカウンシル委員，オランダクラフトカウンシル会長等も務める。来日は複数回に及び，埼玉大学や同志社大学で何度か講演を行うほか，国際文化経済学会アジアワークショップでは，ワークショップリーダーを何度か務めている。代表的な著書は，“Value of Culture”，“Speaking of Economics: How to get in the conversation”（『経済学は会話である—科学哲学，レトリック，ポストモダン』後藤和子・中谷武雄監訳，日本経済評論社，2010年）等

Web サイト <http://www.klamer.nl/>

後藤和子ごとうかずこ

摂南大学経済学部教授

京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。埼玉大学経済学部教授を経て現職。2004年～2005年，オランダエラスムス大学客員教授。文化経済学会<日本>会長，国際文化経済学会(ACEI)理事，文化庁文化審議会文化政策部会委員等を歴任。『文化と都市の公共政策：創造的産業と新しい都市政策の構想』（有斐閣，2005年），『クリエイティブ産業の経済学』（有斐閣，2013年），“Tax incentives for the creative industries”，Springer，2017(共編著)他，著書多数。

(お問合せ先)

文化庁長官官房地域文化創生本部

総括・政策研究グループ リーダー 星野 有希枝

セミナー係 廣幡，玉崎

TEL：075-330-6720（直通）／FAX：075-561-3512

所在地：京都市東山区東大路通松原上る三丁目毘沙門町 43-3

※ 必要事項を御記入の上、9月6日（水）17：00までに

F A X（075-561-3512）で文化庁地域文化創生本部宛、登録願います。

取 材 登 録 票

文化庁地域文化創生本部発足記念セミナー

平成29年9月12日（火）13時30分～15時（13時受付開始）

京都市東山区総合庁舎北館 3階大ホール

（京都市東山区清水五丁目130番地の6）

報道機関名（貴社名）		
御担当者名		
連絡先		
カメラ等	VTR取材 有 ・ 無	スチールカメラ 有 ・ 無
備 考		

文化の価値を
再確認！

文化庁地域文化創生本部 発足記念セミナー

参加費無料

「オランダの文化政策の最新動向： 質と公共的価値重視への転換」

Recent trends in Dutch cultural policies: a switch to emphasis on qualities and public values

- 1 開催日 平成29年9月12日(火) 13時30分～15時 (13時受付開始)
- 2 講師 アリオ・クラマー(Arjo Klamer)
エラスムス大学(オランダ)芸術・文化経済学講座教授
(日本語への通訳あります。)
- 通訳 後藤和子 摂南大学経済学部教授
- 3 内容 国際的に活躍する文化経済学者であり、価値に基づいたアプローチを発展させてきたクラマー氏をお迎えし、オランダの文化政策の最新動向を御紹介いただきます。文化の価値を改めて見つめなおし、文化政策のあるべき方向性を根源的に考えてみませんか？
- 4 参加費用 無 料
- 5 募集人数 先着100名
- 6 申込方法 裏面の参加申込書により、FAX(075-561-3512)又はEメール(policy-co-re@mext.go.jp)で文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ セミナー係宛、**8月29日(火)まで**にお申込みください。
※定員超過により御参加いただけない場合には、御連絡先宛にお知らせします。
- 7 会 場 京都市東山区総合庁舎北館 3階大ホール
〒605-8511 京都市東山区清水五丁目 130 番地の 6



(アクセス)

地下鉄東西線「東山」駅下車
→市バス 100, 202, 206 に乗換
市バス「清水道」下車 南へ徒歩すぐ
京阪「清水五条」駅下車 徒歩10分

※公共交通機関を御利用願います。

《お申込み・問合せ先》 文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ セミナー係
電 話 075-330-6720
F A X 075-561-3512
Eメール policy-co-re@mext.go.jp

主催: 文化庁 地域文化創生本部

協力: 京都市, 文化経済学会(日本), 同志社大学創造経済研究センター

文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ セミナー係宛

FAX : 075-561-3512

Eメール : policy-co-re@mext.go.jp

文化庁地域文化創生本部 発足記念セミナー 参加申込書

(ふりがな) 御 芳 名	計 名 ※複数人でお申し込みの場合も、全員のお名前をお願いします(別紙可)。
御 所 属	
連絡先電話番号 (日中連絡先)	
連絡先Eメール	

※ 定員超過により御参加いただけない場合は、連絡先電話番号又はEメールにお知らせします。

※ 記載いただいた個人情報は、本セミナーに関する御連絡にのみ使用します。

Arjo Klamer アリオ・クラマー



エラスムス大学(オランダ, ロッテルダム) 芸術・文化経済学講座 教授

1953年オランダヒルバーサム生まれ。1978年アムステルダム大学経済学博士。
1981年アメリカのデューク大学でPh.D.取得後、アメリカ各地の大学で教鞭をとり、世界初の文化経済学教授ポストをおいたエラスムス大学で最初の教授となる。国際文化経済学会前会長。ロッテルダムアーツカウンシル委員、オランダクラフトカウンシル会長等も務める。来日は複数回に及び、埼玉大学や同志社大学で何度か講演を行うほか、国際文化経済学会アジアワークショップでは、ワークショップリーダーを何度か務めている。代表的な著書は、“Value of Culture”, “Speaking of Economics: How to get in the conversation” (『経済学は会話である—科学哲学, レトリック, ポストモダン』後藤和子・中谷武雄監訳, 日本経済評論社, 2010年)等 Webサイト <http://www.klamer.nl/>

後藤和子ごとうかずこ

摂南大学経済学部教授

京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。埼玉大学経済学部教授を経て現職。2004年~2005年、オランダエラスムス大学客員教授。文化経済学会<日本>会長, 国際文化経済学会(ACEI)理事, 文化庁文化審議会文化政策部会委員等を歴任。『文化と都市の公共政策: 創造的産業と新しい都市政策の構想』(有斐閣, 2005年), 『クリエイティブ産業の経済学』(有斐閣, 2013年), “Tax incentives for the creative industries”, Springer, 2017(共編著)他, 著書多数。